



ニュースレター VOL. 2

(2011.5)

—contents—

1. 『ゆく “りいぶる” ・くる “りいぶる”』
2. 「悠々 “おひとりさま道”」講座レポート
3. eか・んコラム
『りいぶるおすすめ♥ブック♥』
『知っ得！なっ得！ジェンダー用語』
4. 編集後記
5. 告知！！上野千鶴子さん講演会開催！



—ゆく“りいぶる”・くる“りいぶる”—

“りいぶる”の平成22年度事業の一部を受託してから早1年がたちました。eかんぱにいは、りいぶるが“県民の皆さんのサードプレイス”（世代を超えて気軽に来られる場所、出会い、交流、学習ができる憩いの場所）になればとの思いと、和歌山県の男女共同参画が少しでも前進するようにとの真っすぐな気持ちで取組んできました。まずスタッフに「お疲れさまでした！」と心の花束と共に感謝の気持ちを届けたいと思います。この1年ほど人と人とのつながりの大切さと難しさを痛感したことはありませんでした。講師の先生、市町村担当者の方々など関係の皆さまに深く感謝いたします。ありがとうございました。

22年度は全39講座（62コマ）を実施し、相談事業も相談員5人体制を充実させました。「あんなにたくさんの事業を次から次へとよくやったなあ」とは率直な感想ですが、ひとつひとつの講座に和歌山県の男女共同参画推進の願いをこめて企画・運営してきました。また、りいぶる事業とは別に、eかんぱにい主催で子育て支援事業や高齢者の自立をテーマにお話とワークショップを開催し、いずれも好評を得ました。（記事参照）

国の第3次基本計画では、あらたに女性の経済的自立や男性の育児参画、また、地域のニーズをとらえて男女共同参画の視点で解決する提案をしていこうという指針が出ています。私たちも新たな切り口で1年間の経験を力にかえて、実感できる男女平等社会に向けて地道に努力していこうと思いを新たにしています。

春は別れと出会いの季節。4月1日から、新所長が着任され新しい体制となった“りいぶる”。今年はどうな出会いが待っているでしょうか？希望と期待を込めて、さぁスタートです!! （小原）

和歌山市男女共生推進センター自主企画講座

☆平成 23 年 2 月 1 1 日（祝・金）開催☆

「悠々“おひとりさま道”」講座レポート！

平成 22 年度和歌山市男女共生推進センター自主企画講座として、和歌山大学経済学部准教授の金川めぐみさんを講師に、“おひとりさま”をテーマに開催しました。定員の 30 人を超える 39 人の申込みがあり、“おひとりさま”への関心の高さがうかがえました。



講師からは、21 世紀は「おばあさん」の時代といわれ、誰もが最後はひとりになる。どこでどう暮らすか、誰とどうつきあうか、おカネはどうするか、どんな介護を受けるか、どのように「終わる」かについて、それぞれが老後を考える時代となった。その中で、孤独は大切なパートナーと話され、

ひとりをうまく楽しめること、そのためには個人個人が自立するということが大切だと、参加者に問題提起を行いました。

後半では、講義をふまえて、「自分らしい」理想の老後、そのために必要なもの、できそうなことについてグループで話し合い、さまざまな意見を全員で共有しました。グループ発表からは、一人ひとりが自立した生活が送れることが大切で、人とつながること、生活そのものを楽しむこと、また社会資源を活用するために情報交換できる場を持ち、男女を問わず人生のパートナーを持つなどの意見が出されました。

参加者からは「わかりやすいお話で参考になった」「これから先の老後や、退職後の不安が解消された」などの感想をいただきました。

（平野）

e か ・ ん コラム

“りいびる” スタッフおすすめ♡ブック♡

今回は、りいびるスタッフの皆さまにご協力いただいて、おすすめブックを紹介します。

りいびるスタッフのオリジナリティ感あふれるセクションです。もちろん、りいびる図書コーナーにございます。

興味を持っていただいたあなた、ぜひりいびるに足を運んでご一読くださいませ。(ちなみに夜は9時まで！月曜・祝日はお休みです)



著者 浅野 富美枝
細谷 実
八幡 悦子
池谷 壽夫
出版社 はるか書房

大人になる前のジェンダー論

学校で学べないジェンダーの視点で、「友だちづきあい」「容姿とモテ」「セックス」「恋愛」「家族」「仕事と将来」などの問題をとりあげている。デートDVについてもふれられ、男・女という枠にとらわれず、自分らしく生きるためのエッセンスがてんこ盛り！こんな本を学生の時に読みたかったな…。これから大人になる人におススメ！

性犯罪被害とたたかうということ



著者 小林 美佳
出版社 朝日新聞出版

性犯罪被害にあったことを、実名をあげて公表、手記「性犯罪被害にあうということ」を出版。その後の生活の変化とさまざまな出会いから、まだ伝えきれない思いがあると筆を執る。性犯罪被害者の目線で、社会の性暴力に対する現状を見て感じてほしいという。

性犯罪被害にあった方とどのように向き合えばよいか、考えさせられる一冊です。



著者 小野瀬 健人
出版社 主婦と生活社

「食べない心」と「吐く心」 摂食障害から立ち直る女性たち

「摂食障害＝やせたい願望の病」、世の中ではこんな認識が多いのではないだろうか。この本は、本当の原因は幼少期からの「心の傷」という考え方にたち、治療には親と離れ、「癒し」と「自我」の構築が必要と説いている。根底には母娘関係、自我の不確立など根が深い問題が見える。摂食障害を理解するために必読の書。

知っ得！なっ得！ジェンダー用語

誰だって、『私らしく、自分らしく』生きたいですね。
毎日を自分らしく生きていくために、これを知っておくと
損はないよ～！
頭のスミに、心のスキマに、この言葉を留めておいてはい
かがでしょうか。

ーリプロダクティブ・ヘルス/ライツー

「性と生殖に関する健康と権利」と訳され、1994年カイロで開かれた国際人口開発会議で提唱されました。女性のライフサイクルを通して、性と生殖に関する健康、生命の安全を権利として捉えようという概念です。「私のからだは私のもの」という言葉で象徴され、安全な妊娠・出産や、性感染症の恐れなしに性的関係が持てることなどを女性が自己決定できる権利です。ただ現実には、私たちの身近でも望まない妊娠や中絶、性感染症などの問題は多く、女性が自分らしく生きることを阻む要因といえます。でも、「私」の生き方は、「私」が決めていいのです。

ーアンペイドワークー

無償労働と訳され、代表的なものは家事や育児、介護、途上国での水汲みや食料調達などの生存維持労働などが含まれます。このほとんどを女性が担ってきたにもかかわらず、正当な評価は受けてきませんでした。

男女平等というならば、男女が有償・無償労働に関わらずバランスよく担える社会の実現が不可欠です。いまや「男女平等は世界の共通認識」のはずなのに、私たちの社会は果たしてそうでしょうか！？

イクメン・カジダンともてはやすのもいいけど、ブームに終わるのなら無意味ですね。だれもが相手をねぎらい、心から手をとりあえる社会ならだれもがイクメン・カジダンなんだろうけれど…。

編集後記



Vol. 1 発行からはや数カ月…。気がつけば新年度を迎えてまた慌ただしい日々が始まりました。

未曾有の大震災が起き、被災された方々の悲しみや苦しみが少しでも軽減されること、そして避難生活をされている女性たちの安心・安全を願わずにいられません。

毎日を大切に、自分たちができることを実行する。和歌山から少しでも元気が届けられますように…。

あなたも会員になりませんか？

和歌山 e かんぱにいは、平成21年5月に認証された特定非営利活動法人です。一人ひとりが持てる力を十分発揮できる男女共同参画社会の実現をめざしてさまざまな活動を展開し、ふるさと和歌山を元気にすることを目的としています。

お問合せ・お申込みは下記まで

—あなたらしく生きる、キーワードは3つの **e**—

特定非営利活動法人 **和歌山 e かんぱにい**

〒640-8323

和歌山市太田 2-4-24

TEL/FAX:073-488-7870

E-MAIL : ecompany821@gmail.com



“おひとりさま”を愉しむために

～自分らしいおひとりさまの老後～

講師：上野 千鶴子さん



開催日時 5月14日(土) 14時～16時

場 所 和歌山商工会議所 大ホール

(和歌山市西汀丁36) ※和歌山バス市役所前下車すぐ

定 員 150人

ちょこっとコンサートもあるよ!

参加費 無料

♪♪クラリネット四重奏♪♪

申込方法 事前申込は不要。直接会場へお越し下さい。

ただし定員になり次第受付を終了します。

※手話通訳が必要な方は、一週間前までに

FAX か E メールでお申込みください。

— お申込み・お問い合わせ先 —

特定非営利活動法人 和歌山 e かんぱにい

TEL/FAX : 073-488-7870

E-MAIL : ecompany821@gmail.com

(講師略歴)

1948年富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了。
東京大学大学院人文社会系研究科教授、社会学者。専門は女性学、
ジェンダー研究。1994年『近年家族の成立と終焉』(岩波書店)
でサントリー学芸賞受賞。近年は高齢者の介護問題に関わっている。